

CUBE SYSTEM Message

第49期 株主通信 | 2020年4月1日▶2021年3月31日

キューブシステムの、今とこれからをお知らせします

新中長期経営ビジョン「VISION2026」で 変革に対応した持続的成長を目指します

スマホ株主通信はこちら!

会社紹介動画もございます。ぜひご覧ください。

https://p.sokai.jp/archive/2335_kabu/kabutsuu49/



業績は前年度水準を維持

2020年度の情報サービス業界は、新型コロナウイルス感染症の拡大による購買行動の変化に対応したECサイト・通信サービス・小口物流などの分野で需要が増加した一方、コロナ禍の影響が大きい分野では需要が停滞しました。

そうした中で当社は、小口物流関連などの積極的なIT投資に対応したものの、IT化を様子見されるお客さまもあり、2020年度の業績は前年度同水準となりました。

2020年度の取り組み

2020年度は「VISION2020」3rd STEPの最終年度として、サービスメニューの創出に向けた取り組みに加え、先行して新中長期経営ビジョン「V2026」の4つの重点施策に着手しました。

「DX事業の推進」では社員間のコミュニケーションを見える化して促進する「スマイルシェアプロダクト」を開発し、「人材価値の向上」では社員の多種多様な能力を定義する「キャリアフィールド」をつくり、2020年度から個人の能力と目指すべき領域を明確にした人材育成がスタートができました。また、「品質向上の取り組み」では新設した「システム開発会議」が各プロジェクトの課題を顕在化する前に抽出することで品質向上を推進し、「ガバナンス体制の整備」は「経営」「執行」「監督・監査」が三位一体となってさらなる整備を進めることができました。



代表取締役 社長執行役員 兼 CDO

中西 雅洋

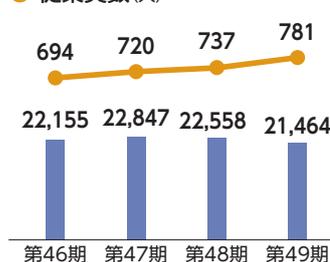
財務ハイライト

売上高(百万円)	営業利益(百万円)	経常利益(百万円)	親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)
14,788	1,174	1,295	844
対前期比 0.5%	対前期比 22.5%	対前期比 32.7%	対前期比 60.7%

● ROE(純資産利益率)(%)



■ 1人当たり売上高(連結)* (千円)
● 従業員数(人)



業種別販売実績(連結)(百万円)



*: 海外子会社の従業員数を除いて算出しております。



CHANGE→CHANCEで 新たな可能性に挑戦します

全社横断の「DX事業推進室」「ビジネス革新室」「プロセス革新室」、人材と働き方の多様性を追求した人材確保と人材育成などで「デジタルビジネス」「SIビジネス」「エンハンスビジネス」の確立を目指します。

「V2026」で目指す3つのビジネスモデル

中長期経営ビジョン「V2026」では、「デジタルビジネス」「SIビジネス」「エンハンスビジネス」の確立を目指しています。

「デジタルビジネス」は新しいデジタル技術を使ったビジネス創出で、当社発の企画型ビジネスを確立していきます。「SIビジネス」は既存システムをクラウド上のサービスと連携し再構築する、Lift & Shift型が主流になると考えており、専門各社との協業で対応していきます。「エンハンスビジネス」は多様な就業スタイルなどで生産性を高め、収益性を上げていきます。

この3つのビジネスモデルを確立していくために、縦割りだった営業本部に横断する組織を新設しました。昨年設置した「DX事業推進室」と、新たに設置した「ビジネス革新室」「プロセス革新室」です。全社横断で施策を打ち、必要に応じて投資をしていくことで3つのビジネスモデルを推進してまいります。

VISION
2026

サステナビリティ経営を志向し 持続的成長を実現します

当社の人的資本、知的資本、社会関係資本そして財務資本を活かして、「V2026」の3つのビジネスモデルを確立し、変革に対応できるサステナビリティ経営で持続的成長を実現してまいります。

人材と働き方の多様性を追求

ITサービスには多様な方々が多様な働き方で参画できるという特徴があると思っています。IT業界ではサービスの規模が大きくなるほど、多数の技術者が必要になり、人材の確保と育成は大きな課題です。そうした意味からも、多様な人材を当社として積極的に受け入れられるようにしていきたいと考えています。働き方も、勤務場所・時間、契約形態まで含めた就業形態の多様性を追求し、「この会社でずっと働きたい」と思ってもらえるような就業環境を目指します。

また、人材育成では社員のコミュニケーションも課題であると思っています。この課題から生み出されたのが「スマイルシェアプロダクト」です。私自身の取り組みとしては、各部門の部会に出向いて社員と直接コミュニケーションを取り、経営を身近に感じてもらうように努めています。



変革に対応した成長を続ける

持続的成長を実現するために、上記の多様な人材の受け入れやビジネスパートナーさまとのより緊密な連携などにしっかりと取り組んでまいります。SDGsに対応した取り組みとしては、多様な人材の受け入れや産業基盤の強化などを目標として定め、推進してまいります。

今後につきましては、6年間の計画である「V2026」の前半3年間で事業を伸ばしながら変革に対応できる事業基盤をしっかりと構築し、後半3年間でさらに事業を伸ばしていきたいと考えております。



「V2026」実現のための方向性

「V2020」での取り組み、そして「V2026」へ

当社グループは、2012年に2020年度までの中長期経営ビジョン「V2020」を策定し、「強みの強化」「SIビジネスの立ち上げ」「サービスメニューの創出」の3つのテーマに段階的に取り組み、新たな成長領域への展開やビジネスモデルの変革、海外での事業拡大を推進してまいりました。

この実績と昨今の事業環境の大きな変容を踏まえ、2021年度を初年度とする2026年度までの中長期経営ビジョン「V2026」を策定し、その実現に向けて各施策に取り組んでまいります。

「V2026」では、社員一人ひとりが、事業を通じて社会に貢献し、事業成長を果たすとともに企業価値の向上を目指してまいります。そのために、「企画型+受託型ビジネスで事業成長を果たす」「社員自らが志とビジネスマインドを持ち、自ら考え、行動する」をミッション・ステートメントとして邁進してまいります。

V2020の振り返り

>> 1st STEP

大規模SI案件を受託できる体制の構築は達成

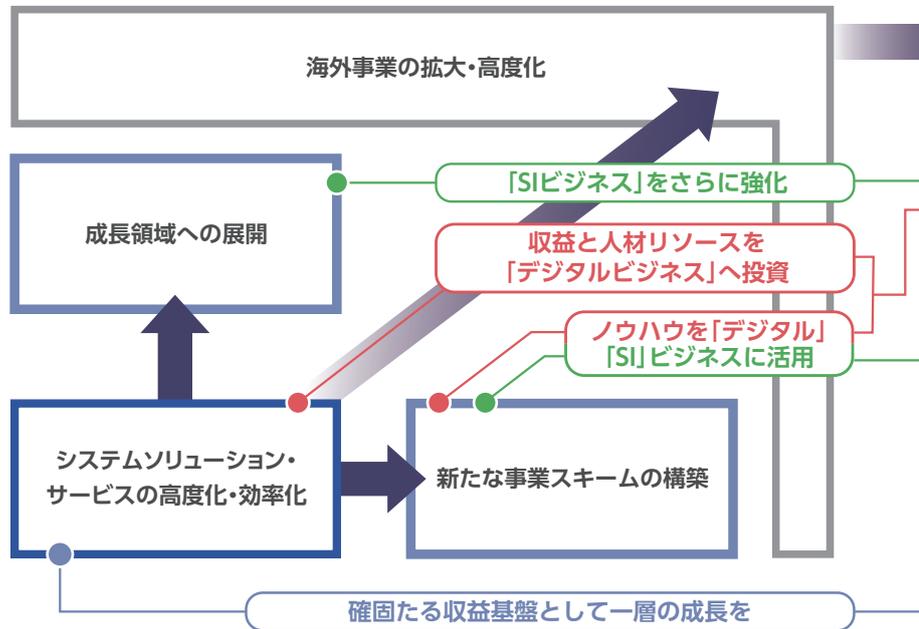
>> 2nd STEP

チャレンジするも計画通りに進められず、成長鈍化

>> 3rd STEP

売上高・営業利益率ともに未達

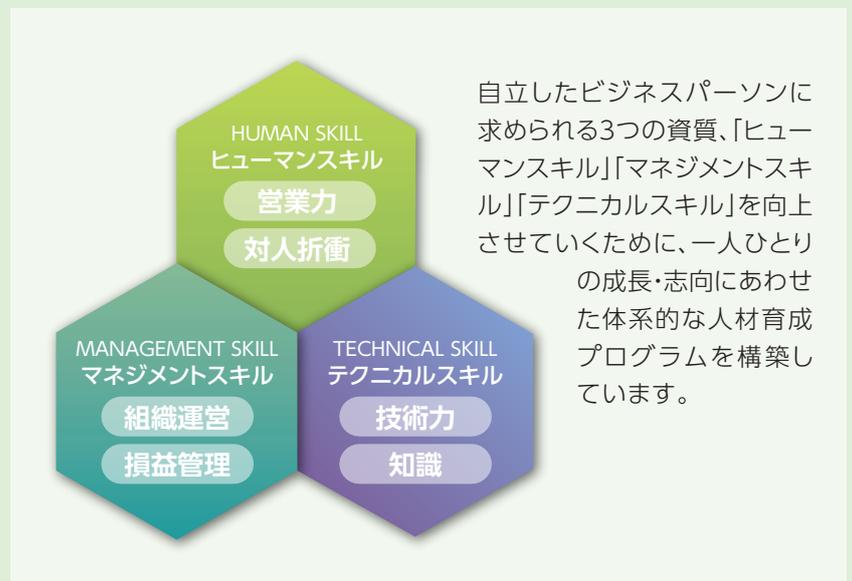
未達の要因は、当初より目論んでいた「新規事業」の拡大、人的リソースの確保が十分に実行できなかったことに加え、大型案件受注も受託型で積極的な提案を仕掛けることができなかったため



人材価値の向上

人材価値向上への取り組み

エンジニアリングのスキルは当社グループの競争力強化、差別化に直結するため、システムエンジニアの継続的なスキルアップや社員の健康、働き方改革は重要な経営課題と捉えております。技術力強化に向けた研修プログラムの充実に加え、先進的な技術を取り入れたプロジェクトの推進等による成長機会の創出や、研究開発によるエンジニアリング力の向上に努めてまいります。



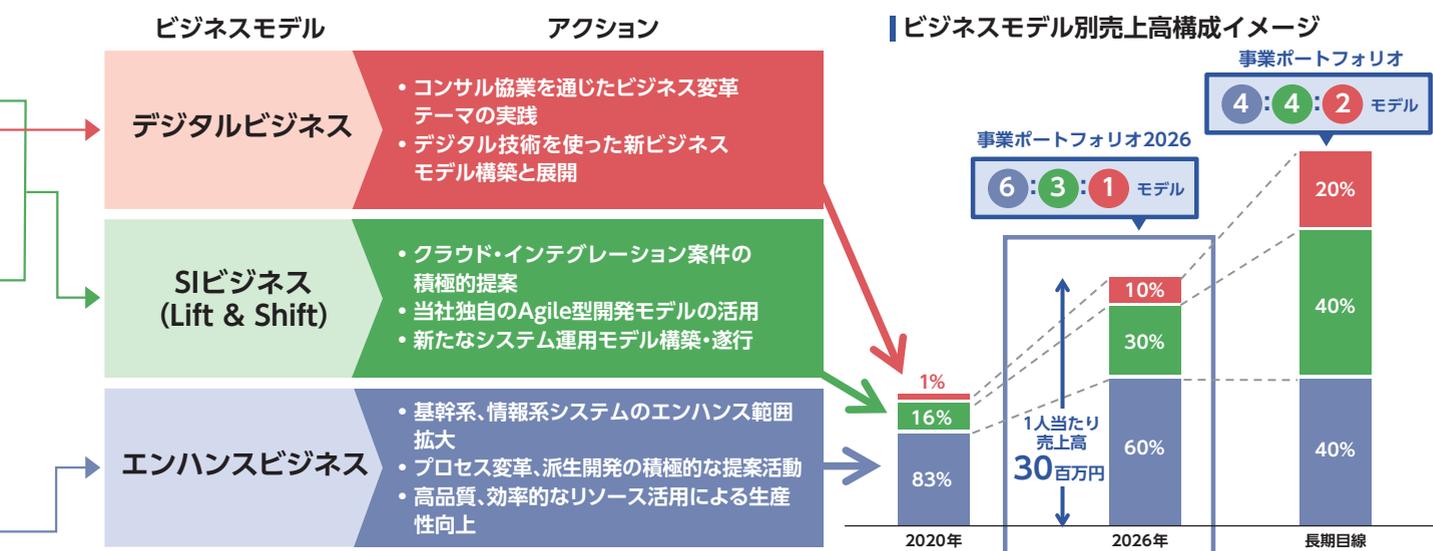
事業資産を活かし持続的成長を目指す

「V2026」の最終年度にあたる2026年度に向けて、エンハンスビジネスで獲得した利益を源泉にSIビジネス、デジタルビジネスでの領域を拡大し、売上高構成比6:3:1を目指してまいります。そのために、当社グループの成長戦略を2つのステップに分けて推進してまいります。

2021年度から2023年度までの第1次中期経営計画では、新たなビジネスへの変革の時期としてビジネス資産を形成するとともに、成長を盤石なものにするために制度設計、事業推進上の体制整備等に注力し、事業成長の基盤を確立いたします。第1次中期経営計画の最終年度にあたる2023年度は、売上高185億円、営業利益率8.0%、ROE13.0%以上を計画しております。

2024年度から2026年度までの第2次中期経営計画では、第1次中期経営計画で確立された基盤を活かし、エンハンスビジネスでの圧倒的な生産性による収益の確保を行うとともに、デジタルビジネスおよびSIビジネスでの飛躍的な事業成長を狙ってまいります。

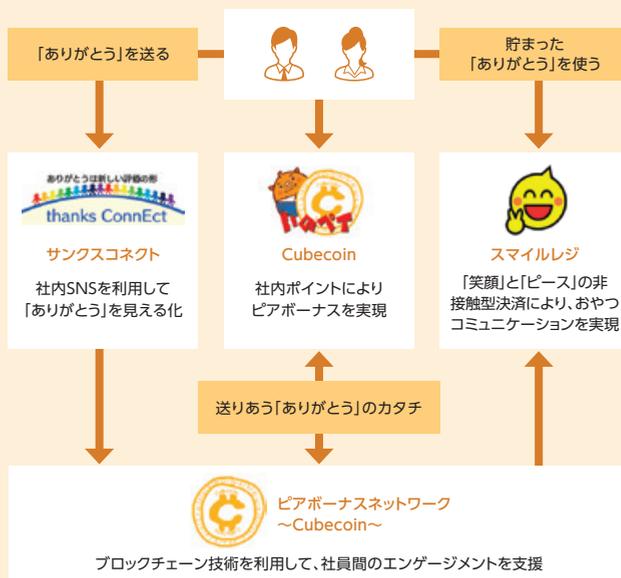
企画型+受託型ビジネスで安定的かつ継続的な事業基盤の構築 エンハンスビジネスを基盤にSIビジネス、デジタルビジネスへの投資注力



スマイルシェアプロダクト

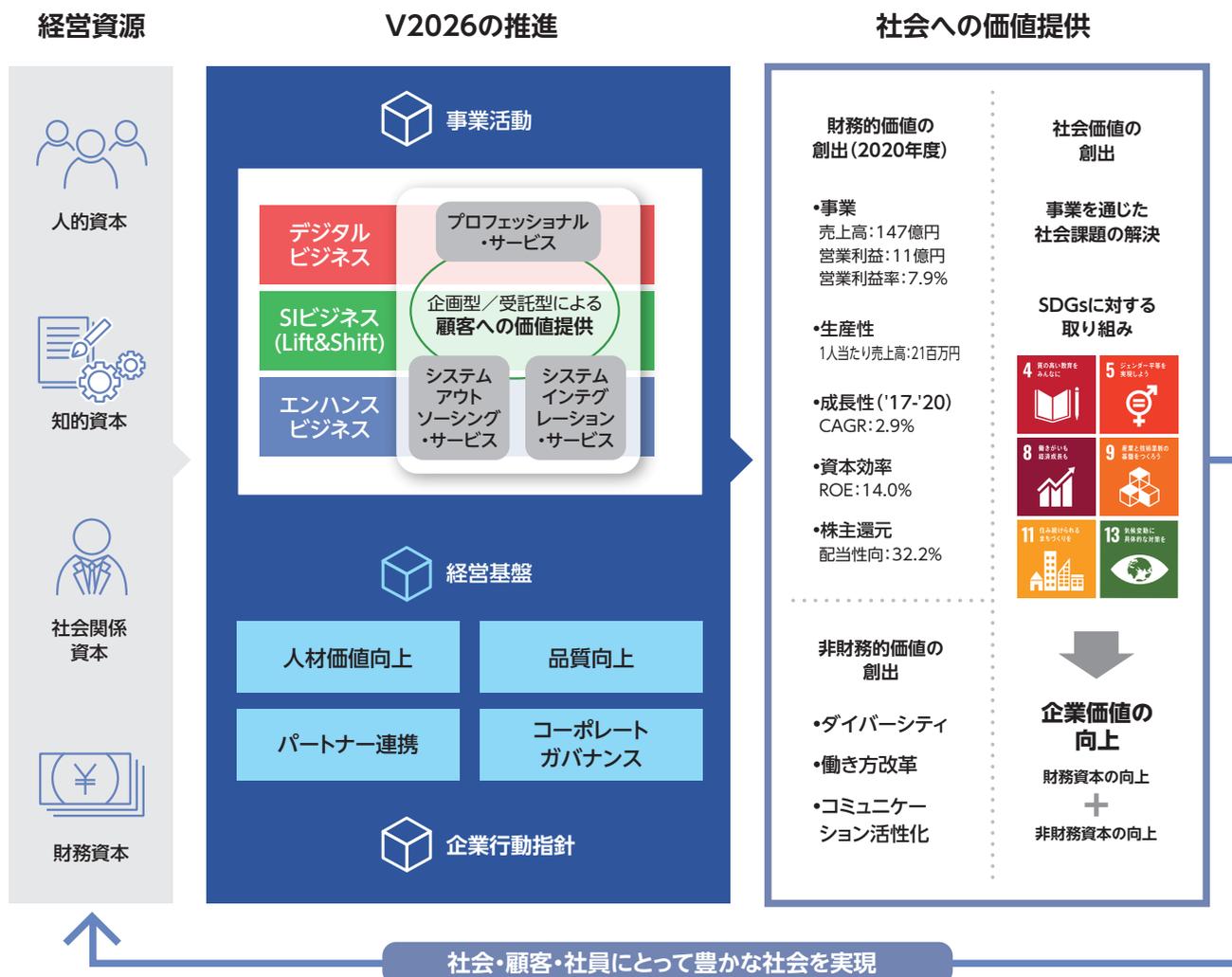
スマイルシェアプロダクトとは、「デジタル技術を使って社員をスマイルに」をテーマにしたキューブシステム独自のソリューションです。「サンクスコネクト」「Cubecoin」「スマイルレジ」の3つのサービスが連携しあい、テレワーク時代の非接触型コミュニケーションと社員間のエンゲージメントを支援するプロダクトです。詳細は当社HPのスマイルシェアプロダクトページをご参照ください。

<https://www.cubesystem.co.jp/service/smile/>



サステナビリティ経営(価値創造モデル)について

価値創造モデルは、当社グループが経営理念にもとづいて、これまで培ってきた強固な「財務資本」と多様な「非財務資本」を活用し、ビジョン実現に向けて事業活動を推進することでサステナビリティ(持続的)な社会の発展に貢献し、企業価値向上を図る仕組みです。



ガバナンス体制の整備

ガバナンス体制の進化

お客さまに満足いただけるソリューション・サービスを提供し続けるために、公正かつ効率的な経営に取り組むべく、コーポレートガバナンスの充実を重要課題と捉えております。経営の意思伝達プロセスが機能する体制の構築に努め、経営と執行の有機的な運営を行うことで、適切・適正な監督・モニタリングと意思決定の迅速化を図ります。

経営の意思伝達プロセスが機能する体制の構築

事業戦略、人事戦略等の経営リスクに対する報告を強化、その対策を議論検討

監督・モニタリングと意思決定の迅速化

事業継続プログラム(BCP)の再構築

市場構造改革を見据えたコーポレートガバナンスの整備

株主の皆さまの資産価値の向上を目指して、 配当金・株主優待の充実を図っていきます。

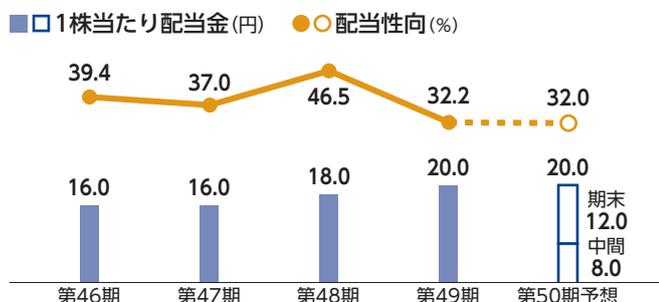
◆ 配当金

当期につきましては、1株当たり
年間20円の配当とさせていただきます。

当社は、株主の皆さまへの利益還元を経営の最重要課題と認識しており、経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、連結配当性向35%を目安に安定した配当を継続して実施していくことを基本方針としております。

第49期の期末配当金につきましては、業績などを総合的に検討いたしました結果、株主の皆さまの日頃のご支援にお応えすべく、2021年4月14日開催の取締役会決議により1株につき12円とさせていただきます。なお、中間配当金1株当たり8円とあわせまして、年間配当金は前期より2円増配の1株当たり20円となりました。

次期の配当金につきましては、1株当たり年間20円とし、中間配当8円、期末配当12円を予定しております。



◆ 株主優待

当社は、株主の皆さまの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、中長期的に保有していただける株主さまの増加促進を図ることを目的に株主優待制度を導入しております。

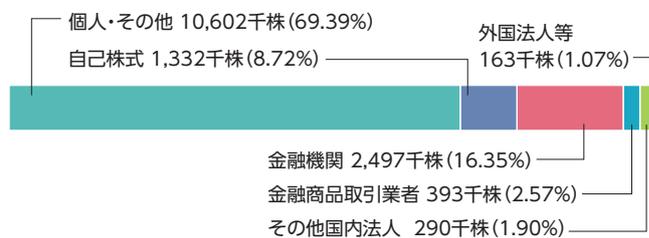
株主優待は毎年9月末日現在の株主名簿に記録された株主さまを対象に、下記の基準でJCBギフトカードを贈呈いたします。

保有株式数	優待内容
200株以上 400株未満	JCBギフトカード 1,000円分
400株以上 1,000株未満	JCBギフトカード 2,000円分
1,000株以上	JCBギフトカード 3,000円分

株式の状況 (2021年3月31日現在)

発行可能株式総数 …………… 22,364,000株
発行済株式の総数(自己株式1,332,132株を除く) …… 13,947,708株
株主数 …………… 9,542名

所有者別分布状況 15,279,840株(自己株式を含む)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中
上記基準日	毎年3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
配当金受領株主確定日	毎年3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
株主名簿管理人特別口座の口座管理機関	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	東京都府中市日鋼町1-1 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (受付時間:平日9:00~17:00/フリーダイヤル)
公告方法	電子公告(当社ホームページ https://www.cubsystem.co.jp/ に掲載。) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載する。

● 株式に関する手続き用紙のご請求について

特別口座に記録された株式に関する手続き用紙のご請求は、以下のお電話ならびにインターネットにより受け付けておりますので、ご利用ください。

TEL 0120-232-711
(受付時間:平日9:00~17:00/フリーダイヤル)

インターネットアドレス
<https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

CUBE SYSTEM

株式会社 キューブシステム

本社 東京都品川区大崎2丁目11番1号 大崎ウィズタワー
〒141-0032 TEL.03-5487-6030(代)
西日本ソリューション 大阪府大阪市中央区本町1丁目6番16号 いちご堺筋本町ビル6階
事業本部 〒541-0053 TEL.06-6260-2266(代)
名古屋オフィス 愛知県名古屋市中区栄2丁目11番19号熊田白川ビル7階
〒460-0008 TEL.052-211-9140



公式Twitter

https://twitter.com/cubsystem_jp



UD
FONT



PROJECT-
With the Earth
この冊子の印刷・製本に係るCO₂は
PROJECT- With the Earth を
通じてオフセット(相殺)しています。

